

## 【文化行政の法体系】

### 文化芸術振興基本法（H13年12月制定）

文化芸術に関する活動を行う人々の自主的な活動の促進を基本に、文化芸術の振興に関する施策の総合的な推進、心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を旨とする（議員立法）

#### 文化芸術の振興に関する基本方針（法第7条。概ね5年間を見通して策定。）

第1次基本方針の策定：H14年12月閣議決定

第2次基本方針の策定：H19年2月閣議決定

《重点的に取り組むべき事項》

- |                           |                |
|---------------------------|----------------|
| ①日本の文化芸術の継承、発展、創造を担う人材の育成 | ④地域文化の振興       |
| ②日本文化の発展・国際文化交流の推進        | ⑤子どもの文化芸術活動の充実 |
| ③文化芸術活動の戦略的支援             | ⑥文化財の保存・活用の充実  |

### 富山県民文化条例（H8年9月制定）

「国民文化祭とやま'96」（H8）等による県民の文化に対する関心の高まりを受け、県民が文化の担い手であることを基本として文化を振興し、ゆとりと豊かさが実感できる「ふるさと富山」の創造を旨とする

#### 富山県民文化計画（条例第8条。概ね10年の計画期間）

平成10年4月 「富山県民文化計画」策定

平成18年10月 「新世紀とやま文化振興計画」策定

《基本目標》「富山から世界へ 人と文化の輝く『元気とやま』の創造」

- 《施策の柱》
- ・文化活動への幅広い県民の参加
  - ・質の高い文化の創造と世界への発信
  - ・文化と他分野の連携

#### 富山県文化審議会（条例第24条）

文化の振興に関する基本的事項その他文化の振興に関し必要な事項を調査審議委員は、30名以内で、教育委員会の意見を聴いて知事が任命（任期2年）

### 富山県芸術文化振興基金条例（S57年4月施行）

芸術文化の振興を図るため、基金（関西電力株式約52万株）の運用から生ずる収益（約26百万円）を芸術文化関係団体の活動費の助成に充てる旨を条例に明記

# 平成 19 年度の主な本県文化関係事業

新世紀とやま文化振興計画（平成 18 年 10 月策定） ～ 富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造 ～

## 文化活動への幅広い県民の参加

### 身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実

- ① 公立文化ホール活性化事業（ネットワーク、メセナ、出前公演の支援） 17,000 千円
- ② ハンガリー青少年音楽交流事業 2,700 千円
- ③ 近代美術館魅力向上事業 10,000 千円

### 文化の創造への支援

- ④ 地域文化力向上・活性化支援事業 5,000 千円
- とやま舞台芸術祭開催事業 20,000 千円
- 県民芸術文化祭開催事業 17,750 千円
- 芸術文化指導者招へい事業 5,670 千円
- 新県民美術展開催事業 5,000 千円

### 文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大

- ⑤ 県立 3 美術館等連携ボランティア養成事業 1,000 千円
- ⑥ とやまの芸術家発信普及事業（子ども、障害者、高齢者向け等の公演） 6,500 千円
- 内山邸文化の魅力再生事業 20,000 千円

### 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実

- ⑦ 世界こども舞台芸術祭（仮称）事前調査事業 4,000 千円
- 青少年芸術劇場開催事業（教委） 3,143 千円
- 子どもの読書活動推進事業（教委） 2,403 千円
- 小中学校巡回劇場開催補助事業（教委） 1,418 千円

## 質の高い文化の創造と世界への発信

### 「舞台芸術特区 TOGA」における世界的な舞台芸術拠点づくり

- ⑧ 日露文化交流事業（タガンカ劇場との共同事業） 5,000 千円
- ⑨ 利賀芸術公園定期公演（劇団 SCOT）開催事業 5,000 千円
- 舞台芸術特区人材育成事業 23,000 千円
- ⑩ 中高生舞台芸術鑑賞会開催事業 5,000 千円
- 世界演劇祭「利賀フェスティバル」開催事業 25,000 千円
- ⑪ 利賀創造交流館事業 118,910 千円  
（旧利賀少年自然の家の改修・管理運営及び情報発信等）

### 特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信

- ⑫ 世界こども舞台芸術祭（仮称）事前調査事業〔再掲〕 4,000 千円
- ⑬ 国際公募：墨画トリエンナーレ富山 2007 開催事業 16,000 千円
- ⑭ シモン・ゴールドベルク記念音楽祭支援事業（知政） 3,000 千円
- ⑮ 南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ 2007 開催事業 13,000 千円

### 富山固有の文化の発掘と県民による再認識と発信

- 内山邸文化の魅力再生事業〔再掲〕 20,000 千円
- 文化財保存整備事業（教委） 110,462 千円
- 美しい景観づくり推進事業（土木） 13,483 千円
- ⑯ 良好な沿道景観づくりモデル事業（土木） 12,700 千円
- ⑰ 景観づくり重点地域支援事業（土木） 5,800 千円
- ⑱ 「水辺のまち夢プラン」モデル事業（土木） 6,000 千円

### 情報通信等技術を活用した文化の創造と発信

- 富山県映像センター運営費（教委） 9,420 千円
- 生涯学習情報提供ネットワーク事業費（教委） 31,392 千円
- 「とやまオンライン映像館」による情報提供（経管） 3,216 千円

## 文化と他分野の連携

### 文化振興と観光振興

- ⑲ 新観光キャッチフレーズ・シンボルマークキャンペーン事業（商労） 12,720 千円
- ⑳ とやまの『みち観光』創出事業（土木） 12,000 千円
- ㉑ とやまツアー・ブラッシュアップ事業（商労） 4,000 千円
- ㉒ 国際・産業観光施設魅力アップ支援事業（商労） 3,000 千円

### 文化を活かしたまちづくり・地域づくり

- ㉓ 地域文化力向上・活性化支援事業〔再掲〕 5,000 千円
- ㉔ 「くらしたい国、富山」創造ネットワーク事業（知政） 10,000 千円
- ㉕ 「選ばれる富山」創造研究会事業（知政） 2,000 千円
- ㉖ とやま未来遺産再生・発信事業（知政） 6,000 千円
- ㉗ 高岡世界文化遺産登録推進事業（知政） 2,000 千円
- ㉘ 立山黒部世界文化遺産登録可能性調査事業（知政） 3,000 千円

### とやまの食の魅力のアピール

- ㉙ 「越中とやま食の王国」づくり事業（農林） 29,500 千円
- ㉚ 越中料理ブランド化推進事業（商労） 4,000 千円
- ㉛ とやま食育運動推進事業（農林） 20,000 千円

### 文化を活かした産業の振興

- ミラノデザイン交流支援事業（商労） 2,000 千円
- 産業デザイン経営塾支援事業（商労） 1,000 千円
- 富山プロダクツ選定事業（商労） 2,000 千円
- 富山県デザイン展開催事業（商労） 10,583 千円

本年5月に近代美術館魅力向上検討委員会（委員長：高木繁雄北陸銀行頭取。以下「検討委員会」という。）を設置し、県立近代美術館を県民により一層親しみやすく、利用しやすい美術館とするための魅力向上策について検討いただいておりますが、去る8月1日に高木委員長から知事に報告書が答申されました。

## 1 背景

- (1) 専門家からは20世紀以降の美術に焦点をあて、優れた収蔵品や系統立てた展示を高く評価されているが、こうした評価が広く県民に浸透しているとは言えない状況にある。
- (2) 20世紀以降の美術は一般にわかりにくいとの意見も多く、誰にも分かりやすく親しみのもてる教育普及活動を展開する必要がある。
- (3) 国立新美術館、金沢21世紀美術館など新たなコンセプトによる美術館ができており、美術館の運営や機能について見直す点があるか検討が必要となっている。

## 2 検討委員会の実施状況

- (1) 第1回（5月15日） 検討委員会の設置の趣旨、課題整理（本館視察）
- (2) 第2回（6月6日） 審議（課題への対応策の検討）
- (3) 第3回（6月28日） 報告素案の提出 → 報告書の要点整理
- (4) 第4回（7月31日） 報告書最終とりまとめ、報告書のポイント整理
- (5) 答申（8月1日） 委員長から知事へ報告

## 3 報告書の要点

- (1) 検討するための課題を総論（美術館のあり方）と各論（具体的な取り組み）に分けて審議された。
- (2) 総論では、近代美術館設立以来の基本方針（※）を堅持しながら、最近の社会変化や新しい美術館をめぐる動向も参考にして、魅力向上を図るために、次の3つの視点（方向性）の提言があった。
  - ① 「質（品格）を保ち」ながら「より多くの人が集う」賑わいのある美術館
  - ② わかりやすく親しみのもてる、県民と対話し交流する美術館
  - ③ 県民の創造力を刺激し、豊かな芸術・文化づくりを切り拓く美術館

（※）20世紀以降の美術の流れを展望し、新しい創造の可能性を見いだすにふさわしい文化拠点としての役割を果たす。
- (3) 各論では、総論の＜3つの視点＞の下、①展示、②教育普及、③広報・PR、④無料空間（周辺環境含む）の4つの検討項目を設け、それぞれ、急いで取り組むべき「当面の施策」と、中長期的視野から検討を行うべき「中長期の課題」とに整理して施策の提言があった。

## 4 今後の対応

答申された提言は十分尊重し、当面取り組むべき施策は速やかに着手するとともに、また、中長期的課題として示されたものについては、議論を深めた上でしっかり取り組むことにしている。

参 考

< 当面の施策 > (主なもの)

課 題	施 策
<b>(1) 展示</b>	
常設展示「むずかしい」への対応	キャプション、解説パネル、解説カードの工夫
常設展示「変化に乏しい」への対応	教科書掲載の作家シリーズ展
企画展示(近美らしい企画、大型企画)	近美らしい企画展(新しい美術分野等)
美術館ファン、リピーターの増加	友の会会員制度の見直し(メール会員の導入など)
<b>(2) 教育普及(学校教育及び生涯学習)</b>	
学校団体の美術館利用の増加	学校教育活動への美術館観覧の組み込みの働きかけ
様々な世代に対応する普及活動の実施	若者、シニア層など、多様な世代向け解説、鑑賞講座、創作体験教室等の普及プログラム検討
ボランティアの養成	ボランティア日曜トーク(おしゃべり鑑賞会等の工夫)
<b>(3) 広報・PR</b>	
美術館へと誘う積極的なPR等の実施	県内企業や経済界向けPR
	美術館巡りモデルコースの提案
マスコミとの連携	美術館、展示作品、催しの内容紹介の充実
ホームページ等の活用	ホームページの充実
<b>(4) 無料空間(周辺環境を含む)の利用増加策</b>	
入口、エントランスの改修	回転ドア撤去、受付移動、照明設備の改修
オープンスペースの魅力向上	ミュージアムショップオリジナル商品充実の検討
周辺環境やアクセスの改善	近代美術館と城南公園との段差解消等バリアフリー化の検討
	41号線側の環境整備の検討(植栽の工夫)

< 中長期の課題 > (主なもの)

課 題	施 策
<b>(1) 展示</b>	
常設展示「むずかしい」への対応	音声ガイド等情報機器の利用検討
常設展示「変化に乏しい」への対応	時系列による展示法変更の検討(新しい見せ方の工夫)
展示施設設備の整備	現代の美術館にふさわしい照明設備、国際水準の温湿度、セキュリティ設備への更新検討
<b>(2) 教育普及(学校教育及び生涯学習)</b>	
学校団体の美術館利用の増加	情報通信技術を利用した遠隔授業等の検討
学習施設設備の整備	図書コーナー、映像プログラムの拡充
<b>(3) 広報・PR</b>	
美術館へと誘う積極的なPRの実施	広報プロフェッショナルの養成
	「美術館で半日過ごす」など、多面的利用法の提案と効果的宣伝コピーの検討
ホームページ等の活用	インターネット(ブログ)の導入と活用の検討
<b>(4) 無料空間(周辺環境を含む)の利用増加策</b>	
オープン・スペースの魅力向上	喫茶コーナー拡充、レストラン等の検討
周辺環境やアクセスの改善	富山市科学博物館、城南公園との一体感ある環境整備の検討
	41号線側の環境整備の検討(植栽の工夫)

## 内山邸文化の魅力再生事業について

- 1 内山邸の歴史的・文化的な価値 ⇒ 平成 10 年に国登録有形文化財登録  
内山邸は 1868 年（慶応 4 年）に建築され、
- ① 江戸時代の典型的な豪農屋敷の遺構をとどめている邸宅・庭園であり、
  - ② 郷土の開墾、農民生活、風俗文化などに関する文献や生活用品等の歴史的資料を多数所蔵している。
  - ③ 江戸期の農家で、生活や作業に当たったの当時の機能（蔵、作業場等）を残しているものとしては、県内随一である。
  - ④ 主屋は、数奇屋風の造りとなっており、近代和風建築の先駆けとして歴史的な価値が大きい。

○ 入館者数 H15 15,667 人、H16 12,458 人、H17 12,836 人、H18 16,720 人

### 2 内山邸の保存改修計画

- (1) 改修期間 平成 17 年～平成 32 年(16 年)
- (2) 全体事業費 約 1 億 8 千万円

#### ポイント

- ・ 1868 年（慶応 4 年）建築後 140 年近くが経過し、全体的に劣化がいちじるしいことから、全体を 3 期に分け、計画的に改修を行う。  
第 1 期（H17～H20）：劣化が著しく、倒壊の恐れがあり、緊急的な修繕を要する箇所  
第 2 期（H20～H22）：損傷著しいが、緊急性を伴わない箇所  
第 3 期（H23～H32）：経年劣化が進み、長期的には改修が必要となる箇所
- ・ 改修に当たっては、職藝学院の実習教材に提供し、修繕工事に学生が参加することで文化財の伝統的技法の伝承と経費の節減を図る。
- ・ 建築業者の施行に当たっては、文化的な価値が損なわれないよう職藝学院の上野教授の監修（指導・助言）を得ながら進める。

### 3 平成 19 年度の魅力発信事業

- |  |  |
|--|--|
| <p>19 年度<br/>(予算：100 万円)</p> <p>茶会：18 件<br/>華展：10 件<br/>歌会：—</p> <p>(6 月末現在)</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「<u>夜桜鑑賞会</u>」の開催（4 月 6 日～8 日）<br/>桜の開花の時期に併せ、夜間開放しライトアップした夜桜鑑賞会を開催する。<br/>・ 期間中 3 日間で約 1800 人が来館<br/>「夜桜が日本建築にマッチし素晴らしい」と参加者から好評。</li> <li>② <u>もみ倉の保存修復工事の紹介</u>（7 月 7 日～22 日）<br/>もみ倉の保存修復状況を写真パネルで展示</li> <li>③ 「<u>一墨一草展</u>」の開催（7 月 7 日～22 日）<br/>ギャラリー機能を持つもみ倉等を活用し、書と茶花の展覧会を開催し、併せてお茶席を設ける。</li> <li>④ 「<u>夏の花で彩るいけばな展</u>」（7 月 7 日～22 日）<br/>夏の草花で内山邸を彩る「いけばな展」を開催する。</li> </ol> |
|--|--|

## 利賀芸術公園における事業について

「舞台芸術特区 T O G A」の優れた舞台芸術空間と利賀芸術公園のこれまでの活動実績を活かし、舞台芸術人材育成、創造・発信、普及・教育、国際交流などの事業や、「演劇の聖地」にふさわしい環境の創造整備など、世界の舞台芸術の拠点づくりを推進する。

### 1 「利賀フェスティバル」の開催と国際文化交流

#### (1) 「利賀フェスティバル 2007」の開催

「演劇の聖地」利賀の演劇祭にふさわしい世界一流の舞台芸術家や劇団を招聘・上演し、利賀から世界最新の舞台芸術を発信する。

〔実施時期〕 8月17日（金）～25日（土）

〔実施内容〕 舞台芸術公演 7公演（参加国・・・インド、イタリア、日本）

#### (2) 「第14回 BeSeTo 演劇祭」富山開催

日本・中国・韓国3カ国による国際演劇祭。利賀では中国・韓国の作品を上演

〔実施時期〕 9月1日（土）

〔開催場所〕 利賀芸術公園（利賀で開幕後、12月に東京の新国立劇場で閉幕）

#### (3) 日露文化交流事業（舞台芸術共同制作）

日露文化フォーラムの成果を活かして、ロシア（タガンカ劇場）と共同で舞台芸術作品を利賀芸術公園で創造し発信（10月タガンカ劇場公演）

### 2 世界の舞台芸術の拠点づくり（舞台芸術特区 T O G A 構想）

#### (1) 国際的人材育成事業の推進

〔事業主体〕（財）舞台芸術財団演劇人会議

〔実施内容〕

サマー・アーツ・プログラム 2007

- ・ マスタークラス（8/26～9/6 ロシア人俳優）
- ・ 利賀演劇塾（8/58～/19 若手演劇人 15人）
- ・ 利賀演出家コンクール（8/13～22 演出家 13人）
- ・ 利賀インター・ゼミ（8/22～26 月富山大学、全国の大学）
- ・ 大学生創作ワークショップ（8/16～18 桜美林大学）
- ・ 高校生演劇講習（8/2～4 県内高校演劇部約 80人）
- ・ 小学生舞台芸術講座（8/8 利賀村小学生 50人）
- ・ 舞台芸術鑑賞会：利賀フェス中高生等鑑賞会（8/18, 23 約 100人）

ほか

#### (2) 舞台芸術の県民向け普及教育の拡充（劇団 S C O T 再始動）

演出家 鈴木忠志氏による劇団 S C O T（本拠地：利賀）の活動再開を受けて、利賀芸術公園における劇団 S C O T 公演を定期的で開催し、県民が世界的な質の高い舞台芸術を間近に見る機会を拡充する。

〔実施時期〕 平成 20 年 3 月（予定） 利賀創造交流館（旧少年自然の家）

〔実施内容〕 劇団 S C O T 定期公演、鑑賞会の開催

## 利賀芸術公園における国際的人材育成事業の推進

	2007年(予定)	2006年実績	2005年実績
利賀演出家 コンクール 8/13～8/22	参加：演出家 13人 (150人)	参加：演出家 15人 (180人)	参加：演出家 14人 (約200人)
利賀インター・セミ 8/22～8/26	参加：富山大学 17人、 静岡文化芸術大学 10人、 学習院女子大学 7人 外 (45人)	参加：富山大学 23人、 静岡文化芸術大学 26人 外 (62人)	参加：富山大学 9人、 静岡文化芸術大学 17人 外 (43人)
高校生夏期 演劇講習 8/2～8/4	参加：県内高校演劇部 指導：大岡淳 (約80人)	参加：県内高校演劇部 指導：平田オリザ 外 19校 (83人)	参加：県内高校演劇部 指導：宮城聡 外 (96人)
大学生創作 ワークショップ 8/16～8/18	参加：桜美林大学 指導：岸田誠、横田修 (約40人)	参加：桜美林大学 指導：平田オリザ (約50人)	参加：桜美林大学 指導：平田オリザ (約100人)
(新)小学生舞台 芸術講座 8/8	小学生が専門俳優の訓練の様 子を見学する特別講座 (50人)	—	—
舞台芸術鑑賞会 8/18、8/23 及び冬期(予定)	利賀フェスティバル事業鑑賞 ・8/18「世界の果てからこんにちは」 (中学生と保護者 59人) ・8/23「シラノ・ド・ベルジュラック」 (中高生と保護者 40人)  (新)劇団 SCOT 定期公演鑑賞 (3月利賀創造交流館予定)	日露文化フォーラム事業鑑賞 (中高生) ・モスクワ現代美術展 (7校、157人) ・演劇「ヴィイ」 (17校、253人) ・バレエ「眠れる森の美女」 (32校、600人) (合計 853人)	・リア王(中学生鑑賞教室) (9校、300人)
利賀演劇塾 8/5～8/19 及び冬期(予定)	参加：若手演劇人 15人 指導：鈴木忠志  ※冬期も開催予定	参加：若手演劇人 30人 指導：鈴木忠志 (冬期開催)	参加：若手演劇人 26人 指導：鈴木忠志、 エレン・ローレン
スズキ・メット・ マスター・クラス 8/26～9/6	参加：ロシア俳優 13人 指導：鈴木忠志 ※タガンカ劇場との共同制作 (エレクトラ)	—	参加：ロシア俳優 13人 指導：鈴木忠志 ※モスクワの一流劇団 より選抜

## 第 1 回とやま世界こども舞台芸術祭について

### < 背 景 >

- ① 富山で過去 7 回の国際アマチュア演劇祭の開催実績
- ② 世界最高峰のモナコ世界演劇祭と富山国際アマチュア演劇祭との友好提携
  - 平成 9 (1997) 年 スタジオ・ド・モナコ(モナコ世界演劇祭の中心)と劇団文芸座(富山国際アマチュア演劇祭を主導)が友好提携
  - 平成 13 (2001) 年 モナコ世界演劇祭と富山国際アマチュア演劇祭が友好提携 (東西の二大演劇祭が締結)

### < 基本目標 >

- ① 富山の演劇祭を世界三大アマチュア演劇祭として定着させる。
- ② 利賀の演劇と併せて、プロ、アマともに世界最高の「演劇のメッカ富山」を目指す。

### < 事業内容 >

- ① 富山の子どもたちが世界に羽ばたくきっかけとなる内容
- ② 演劇だけでなく、音楽、舞踊などを含めた広い分野での舞台芸術
- ③ モナコ世界演劇祭やドイツ・リンゲン世界こども演劇祭といった「西洋の演劇の祭典」に対して、多様な民俗文化、伝統文化を背景に演劇、音楽、舞踊などを上演する「東洋の舞台芸術の祭典」として差別化

区 分	モナコ世界演劇祭	世界こども演劇祭 (ドイツ・リンゲン)	世界こども舞台芸術祭
開始年度	1957年	1990年	2008年 (1983年の富山国際アマチュア演劇祭 外 6回)
開催頻度	4年に1回 (中間年にモナコ以外で)	4年に1回 (中間年にリンゲン以外で)	4年に1回
対象年齢	年齢問わず	子ども	子ども
対象分野	演劇	演劇	演劇、音楽、舞踊
参加団体数	24団体	24団体	25団体
備 考	平成21(2009)年 本県公演団体が招へい予定	平成18(2006)年 和田朝子舞踊研究所が参加  平成22(2010)年 本県公演団体の招へい未定	

### 【参考】 過去 7 回の富山県での開催実績

- 昭和 58(1983)年 第 1 回富山国際アマチュア演劇祭 TIATF'83(置県百年記念事業)
- 昭和 60(1985)年 富山国際高校演劇祭 TIATF'85(国際青年年)
- 平成元(1989)年 富山国際青年演劇祭 TIATF'89(富山・高岡市市制百年)
- 平成 4 (1992)年 富山国際アマチュア演劇祭 TIATF'92(第 1 回ジャパンエキスポ富山 JET'92)
- 平成 8 (1996)年 富山国際演劇祭、国際こども演劇祭(第 11 回国民文化祭とやま'96)
- 平成 12(2000)年 2000 年とやま世界こども演劇祭(第 6 回世界こども演劇祭)
- 平成 16(2004)年 アジア太平洋こども演劇祭



## 「シモン・ゴールドベルク記念音楽祭2007」について

## 1 趣旨

富山を終焉の地とした20世紀を代表する世界的ヴァイオリニスト、シモン・ゴールドベルクを偲び、またその精神性と芸術性を後世に引き継ぐため、ゆかりの演奏家を招聘して、若手演奏家を養成するセミナーと小規模コンサートを事業内容とする「シモン・ゴールドベルク記念音楽祭 2007」を開催する。

実施にあたっては、実行委員会を組織し、富山県内企業や団体、個人、地方自治体の支援協力を得るものとする。

なお、当初の目的を達成するため、将来にわたって同様の事業を継続実施し、富山県の芸術文化の振興に資するとともに、富山県を世界に向けた音楽芸術の発信拠点とし、地域の活性化を図ることとする。

## 2 開催時期

2007年9月9日(日)から9月22日(土)まで

## 3 主催者等

- (1)主催 シモン・ゴールドベルク記念音楽祭実行委員会(委員長 高木繁雄)
- (2)共催 富山県、北日本新聞社、北日本放送
- (3)協賛 富山県内主要企業等
- (4)後援 富山市、魚津市、県内文化関係団体、マスコミ各社ほか
- (5)協力 (財)松翁記念財団、(社)企業メセナ協議会ほか

## 4 事業内容

### (1)ミニ・コンサート事業

ゴールドベルク夫妻ゆかりの場所において、ゆかりの演奏家たちによるコンサートを開き、夫妻を偲ぶ。

#### <コンサート会場>

- 立山国際ホテル:シモン・ゴールドベルクがその晩年をピアニストである夫人山根美代子とともに過ごし、終焉の地とした。現在、住まいとした471号室は、数々の思い出の品とともに往時のまま大切に保存されている。
- 富山市民プラザ・アンサンブルホール:1991年にシモン・ゴールドベルクが夫人とともにコンサートやCD収録を行った場所。これがゴールドベルク最後のデュオ・コンサートであり、CD収録になった。また、2006年9月9日に、このホールで行われた「こしのくに音楽祭 里帰りコンサート」が美代子夫人の最後のコンサートとなった。
- 富山県立近代美術館:シモン・ゴールドベルクの美術品コレクション19点が夫人の遺言によりこの美術館に寄贈された。20世紀美術の展望をテーマとする近代美術館の展示・収蔵の意図とゴールドベルクの芸術観が重なり合うことがその理由であった。

## (2) セミナー事業

シモン・ゴールドベルクの遺志を受け継ぐ優れた若手演奏家を養成するセミナーである。音楽大学のマスタークラス程度で室内楽を志す学生を対象とし、ゴールドベルクゆかりの演奏家たちが2週間にわたり直接、個人指導を行う。富山県ゆかりの音楽家を養成するという目的から、受講生の選考にあたっては地元出身者やなんらかの縁を持つ者に若干の配慮をすることがある。

また、レッスン及び講義の一部を一般公開するほか、支援に感謝し、セミナーの成果を魚津市民や音楽祭支援者に披露するコンサートを最終日に予定する。

なおセミナーの運営に当たっては、新川文化ホールを活動拠点とする県東部の女性音楽鑑賞団体である新川ムジークフラウエンに全面的な支援をお願いしている。

### <セミナー会場>

#### ○新川学びの森・天神山交流館

旧洗足学園魚津短期大学の校舎であった建物を活用した魚津市の生涯学習施設。音楽系短期大学であったことから、数多くの練習室(防音装置とピアノを装備)や優れた音響とコンサートピアノを擁する合唱棟、合宿練習を可能とする寮と食堂などの設備があり、音楽系のセミナーや練習の場として利用されることが多い。昨年の音楽祭セミナーもここで行われた。

#### ○新川文化ホール

富山県東部の拠点文化ホール。大ホールはクラシック演奏専用ホールとしてつくられており、その音響効果は日本海側随一と評価が高い。

## 世界文化遺産登録に向けての取組みについて

### 1 概要

- (1) 平成 18 年度に文化庁が世界文化遺産暫定一覧表の追加記載の資産について、地方からの提案制度を制定した。
- (2) 平成 18 年度は、県と高岡市が共同で「近世高岡の文化遺産群」を提案。全国から 24 件が提案され、「富士山」など 4 件が暫定一覧表に追加記載となり、高岡など 20 件が継続審議となった。
- (3) 文化庁は、平成 19 年度も引き続き地方からの提案を受けつけることとし、新規提案は 9 月 28 日、再提案は 12 月 28 日までに提案書を提出することとされた。

### 2 平成 19 年度の取組み状況

#### (1) 「立山・黒部」

- ① 世界文化遺産暫定一覧表記載資産候補として、立山・黒部地域の文化資産について、9 月 28 日、石井知事から青木文化庁長官に提案書を提出した。
- ② 提案書の内容等
  - ・資産名称「立山・黒部 ～防災大国日本のモデルー信仰・砂防・発電ー～」
  - ・資産の構成
    - 信仰（山と水を畏れ敬う資産）：「立山室堂」、「大岩日石寺石仏」等
    - 砂防（山と水を治める資産）：「白岩砂防堰堤」、「本宮砂防堰堤」等
    - 発電（山と水を活かす資産）：「黒部川第二発電所」、「小屋平ダム」等
  - ・提案者 富山県・富山市・黒部市・上市町・立山町
- ③ 提案までの経緯
  - ・平成 19 年 1 月 31 日：立山・黒部の文化資産調査研究のための庁内プロジェクトチームを設置
  - ・平成 19 年 6 月 24 日：世界文化遺産セミナー「～立山・黒部の可能性を探る～」の開催
  - ・「立山・黒部地域の文化資産にかかる有識者懇談会」（座長：青柳正規 国立西洋美術館長）の開催

立山信仰や砂防、電源開発の各々の分野に造詣の深い我が国有数の識者の方から、立山黒部地域の文化資産について意見を頂くとともに、提案書を取りまとめるため懇談会を開催

  - 第 1 回：平成 19 年 7 月 6 日（金）
    - ・世界文化遺産登録について
    - ・立山・黒部地域が有する文化資産について
  - 第 2 回：平成 19 年 8 月 6 日（月）～7 日（火）
    - ・立山カルデラ、立山博物館ほか現地視察
    - ・提案コンセプトとゾーニングについて
  - 第 3 回：平成 19 年 9 月 4 日（火）
    - ・提案書の取りまとめについて

## (2) 「近世高岡の文化遺産群」

① 提案書の再提出にむけ、研究会議において提案書の取りまとめを行うほか、11月23日にはフォーラムを開催し全県的な気運の醸成を図ることとしている。

② 「近世高岡の文化遺産群調査研究会議」(座長：服部英雄 九州大学教授)の開催

1月に文化庁から示された課題(①他の提案に類似するものがあり城郭及び城下町の観点からの位置付けについて再検討すること、②瑞龍寺、勝興寺以外に町並みや街道などさまざまな文化遺産を掘り起こして、提案の内容を充実させることなど)の整理に向けて、専門的立場から文化遺産の学術的価値などの研究を行うとともに、再提案書の取りまとめについて指導と助言を受けるため、高岡市とともに研究会議を開催。

○第1回：平成19年6月30日(土)

- ・勝興寺、瑞龍寺などの遺産の現地視察
- ・コンセプトの基本方針及び追加資産の検討

○第2回：平成19年8月23日(木)

- ・追加する資産の検討
- ・顕著な普遍的価値の検討

○第3回：平成19年11月16日(金)

- ・コンセプトの最終案などを検討の予定

③ 世界文化遺産フォーラム「めざそう世界文化遺産－高岡の宝を世界に宝に－」の開催

高岡の文化遺産群を県内外にアピールし、県民による地域の魅力の再認識とともに、登録に向けた全県的な盛り上げを推進するため、平成19年11月23日(祝・金)に高岡商工ビルにおいてフォーラムを開催する。

## 3 今後の予定及び当面の課題

### (1) 今後の予定

① 平成19年度は、新たに13件が提案され、昨年度の審査で継続審議となった20件と併せた33件が、世界遺産暫定一覧表への追加記載について、文化審議会文化遺産特別委員会で検討されることとなった。

② 暫定一覧表への記載の審議結果の公表時期については、新聞報道によれば、平成20年度夏を目途とするとされている。

### (2) 当面の課題

① 構成資産の国の重要文化財指定

世界遺産登録に向けては、構成する資産の多くが国の重要文化財に指定され、国内でもその価値を認められていることが大切であり、白岩砂防堰堤や黒部第二発電所・小屋平ダム、前田利長墓所や高岡城跡などの重要文化財指定に向けて調査研究を行うとともに、施設管理者の理解を得るよう協議を進める必要がある。

② 県民意識の醸成

世界遺産登録への取り組みは、地域の歴史的・文化的魅力を県民や幅広い関係者に再発見・再認識してもらい、国内外に発信し、活性化につなげるとともに県民が郷土に誇りを持つよい機会であり、県民の理解を深め世界遺産登録への機運の醸成を図る活動を進める必要がある。